

1、幼稚園の教育目標

緑深い木々と、広い運動場、整った設備の中でいきいきとした心身の健康と体力増進を中心とし、ひとりひとりの個性を大切に、諸能力を十分に発達させ、情操を豊かにし、人間形成の基礎を確立することを目標とする。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

教職員各自が幼児教育要領を理解し幼児期に育てほしい10の姿に基づいて計画した学園のカリキュラムに沿って、子ども一人ひとりにむきあった教育保育活動を行うようにする。また感染症対策を日常の様々な場面に取り入れながら工夫し教育保育活動を行う。運動カリキュラムによる活動や運動遊びを取り入れた活動を各年齢ごとに行い、運動遊びを行えるしっかりとした体づくりに取り組む。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
幼稚園の教育課程の編成・実施や目標に基づいての計画性や保育教育のあり方	B	保育の計画性については清潔・安全な環境構成をもとに、子どもたちが楽しめる遊具・玩具を新しく取り入れるようにした。各学年においては週案・指導計画をもとに日々の保育や行事を学年ごとの会議を持つことで計画的に進めることが出来た。また各年齢ごとの活動する機会を多く持つことで年齢ごとの取り組みや、子どもたちが楽しめる活動を行う事ができた。
具体的な保育の在り方、幼児への対応や保育内容の教職員の共通理解	A	実際の保育では、子どもと一緒に遊ぶことで同じ目線で気づけた事が多くあり、今後も続けていきたい。年少では一人ひとりに関わる保育ができるように丁寧に子どもと関わることを心がけ保育を行うようにした。今後もより一層、教職員一人ひとりが子どもに寄り添う保育を行うようにする事が大切だと考える。担任やフリー教諭など、さまざまな教職員間で行事の準備内容や役割、また子どもの様子など、よりきめ細かな伝達がとれるよう会議の持ち方や連絡方法の工夫をし、共通認識が持てるように今後も細かな伝達を行う事が大切である。子どもの日々の体調や様子の伝達などはおおむね共有することが出来ていた。
教師としての資質や能力 教職員間の相互理解	A	個人情報の管理・取り扱い、締め切りの期日などは園のきまりを守って行う事が出来た。経験年数の違いによる意見交換も昨年よりは各学年ごとに行う事が出来た。しかし学年の違う教職員の関わりが少ない為今後はたて割り保育や学年を隔てての交流を行ったり、保育の遊びの中に異年齢の保育内容を取り入れる事などでコミュニケーションをより図るようにしていきたい。
保護者への対応	A	新型コロナウイルス感染症対策により行事や保育内容の変更事項も多くアプリを導入することで迅速に伝達出来るようになり、保護者からのメールなどで、園児の体調確認など細かく行えるようになった。またホームページの情報公開も昨年より、写真などの更新も増やし、

保護者への対応	A	保護者の方により見やすく伝わるように行った。ホームページなどは、今後さらに保護者にむけた園情報の発信ツールとして活用していきたいと考える。今年度も引き続き各担任は日々の子どもたちの様子をその都度丁寧に保護者に伝え、対応するように心がけた。コロナ禍で保護者が来園する行事なども少なくなっている為、電話や送迎の時などを活用し保護者と丁寧なコミュニケーションをとるようにすることが大切と考える。
地域とのかかわり	C	昨年に引き続き、コロナ禍で小学校見学など行う事が難しかった。状況が落ち着けば地域の小学校・公園などに遊びに行ったり、地域の働く人の場面を見て職業を知るなど、様々な人と触れ合う機会が持てるの良いと考える。また日常の中で園近隣の清掃活動などを通して教職員が近隣の方を知り挨拶などをする事でコミュニケーションを取ることができる場面でもあるので今後も続けて行いたい。
研修の取り組みについて	B	実際の保育に必要な内容の研修や絵画・音楽・体育運動遊び・食育関連又発達についてのことなど専門的な内容の研修にも参加し保育技能の向上を今後も図りたい。現在コロナ禍でリモート研修も多く、時間など調整しやすく参加しやすい利点がある一方、対面で実際に体験して得るまなびの違いを感じている。
安全面に配慮した環境づくりと地域の自然や社会との関わりや取り組み	A	日々の安全点検の確認、励行実施し行うことが出来た。また遊具の新設により、新しい遊具にあわせた安全に留意した遊び方を各学年ごとに決め、行うようにしている。コロナ禍ではあるが、防犯・防災・防火等の訓練は感染症対策をとり行う事で安全教育が出来るように取り組んだ。今後も安全教育は大切である為、しっかり実施、指導教育を行っていくことが必要である。

◎評価結果の表示方法

- A 十分達成されている    B 達成されている    C 取り組まれているが、成果が十分でない  
D 取り組みが不十分である

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	今年度も引き続きコロナ禍にあり、感染症対策を日常の保育・教育活動に取り入れ、どのように工夫すればこどもたちの活動が出来るのかを模索しながら教職員全員で考え、教育保育活動に取り組みました。手洗い、マスクの着脱など年少児も1年間でスムーズに出来るようになり、今後も引き続きしっかり行っていこうと考えます。子どもの活動など各学年ごとは教職員の共通理解もスムーズで計画的に行えましたが学年が異なると伝達が十分でない事もあり、次年度の課題として取り組みたい考えです。またひとりひとりの子どもに丁寧に向き合い個別の関わりを行えるようにしおおむね取り組めていましたが、行事などで保育の余裕がない場面もあり、活動の取り組み方や各個人の保育が課題となります。運動遊びはカリキュラム作成により各学年ごとの活動内容は決まっていますが年間での習得、また達成感を得るなどに必要な事が今後の課題だと考えます。

## 5、今後取り組むべき課題

課 題	具 体 的 な 取 組 方 法
子どものかかわり。環境構成について	子どもと一緒に遊びを通してかかわることで子どもたちと同じ視点で気づいたり、感じたりできたことが多く引き続き同様に活動するようにし、子どもたちが楽しめる活動を活かし、また子どもの創造性が膨らむような環境構成に取り組み、教育・保育内容を考えていきたい。
運動遊びの取り組みについて	各学年ごとのカリキュラム構成に応じた活動をより子どもたちが楽しく普段の遊びや活動の中で取り組むことが出来るように具体的な課題と目標の作成・達成・発表の場を作ることで目標意識を持って取り組むことが出来るようにする。
環境構成の取り組み	子ども一人ひとりに丁寧にかかわり個人に合った教育保育活動を行う中で、子どもの声をしっかり聞き遊びや活動・環境構成を取り入れるようにする。また子どもたちが楽しめる環境構成を自由遊びの時間を活用し、子どもたち自身の主体的な活動ができるようにする。
地域社会・研修について	地域社会の環境や主な施設の場所、交通機関などについて教職員間で伝達しあうなど共通理解ができるようにする。また地域の方とのかかわりも現在の活動の中で続けてとれるようにする。研修については、まだ引き続き感染症対策の中で行う事も多いと予想されるので、新しい参加のスタイルを活かしながら、様々な分野のリモート研修なども増えているので今後も多くの教職員が数多く研修に参加できるよう取り組みます。

## 6、学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められている。

## 7、財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。